

「ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取」に参加しました（2026/10/17・18）

テーマ：ぼうさいこくたい、防災コミュニケーション

会場：鳥取県倉吉市（エスパック未来中心、鳥取県立美術館周辺）

URL：<https://bosai-kokutai.jp/2026/> <https://bosai-kokutai.jp/2026/s-17/>

2026 年 10 月 17 日・18 日、鳥取県倉吉市で「ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取」が開催されました。「ぼうさいこくたい」の正式名称は「防災推進国民大会」で、内閣府などが主催し、産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表したり交流したりする日本最大級の防災イベントです。11 回目を迎えた今年は鳥取県が会場となり、全国から過去最多となる約 530 の企業や団体などが参加、2 日間にわたってセッション・ワークショップ・ブース展示などが展開されました。

災害科学国際研究所からも各分野の研究者が参加したほか、「防災コミュニケーション」をテーマにしたセッションを主催しました。

【災害科学国際研究所主催セッション 10/17（土）14:30～16:00】

「保健師と連携した『防災コミュニケーション』により命を救う！～公衆衛生の知見による行動変容と一次予防の社会実装～」

長年の啓発にもかかわらず、防災対策が行動に移されない現状を打破するため、災害科学国際研究所は公衆衛生学の知見を応用した「防災コミュニケーション学」を展開しています。本セッションでは、個人の意欲に頼らず日常の保健活動等の仕組みで備えを促す「防災コミュニケーション協働プラットフォーム」の活動を紹介。多職種連携による行動変容や、災害一次予防（直接死防止）に向けた社会実装について議論を深めました。

司会は福島洋教授（防災コミュニケーション学分野）が務め、開会にあたり越村俊一所長（災害ジオインフォマティクス研究分野 教授）が「災害から命を守るためには、分野や職種の垣根を越えた連携が不可欠。本日の議論が、公衆衛生と防災が融合した新たな協働の第一歩となり、命を救う行動変容の大きな輪となって広がることを期待しております」と挨拶しました。続いて、6 名のパネリストによる話題提供が行われました。

- ・大類 真嗣 准教授（災害公衆衛生学分野）
- ・多田 直人 内閣府 政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）
- ・後藤 友美 厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 保健指導室長
- ・澁川 悦子 埼玉県南部保健所 保健予防推進担当 副所長
- ・小関 華乃子 埼玉県 東松山保健所 保健予防推進担当 担当部長
- ・中野 元太 京都大学防災研究所 准教授

話題提供の後は、「防災行動を促す接点の模索」「継続的な仕組みづくり」「各分野の役割と相互期待」という 3 つのテーマで議論が交わされました。参加者からは「計画を立てるよりもまず行動することが重要」「縦割り行政であってはいけない。新たに設置される防災庁との連携も不可欠ではないか」「組織の垣根を越えるのは容易ではないが、共通の目標を持つ仲間を見つけることが第一歩となる」といった多様な意見が出されました。

今年のぼうさいこくたいには、前年を 8 千人上回る約 2 万 7 千人が来場したとのことです。参加者は、セッションの聴講や展示の見学などを通じて防災への意識を高めている様子でした。次回大会は、2028 年 3 月 18 日・19 日に宮城県で開催されます。

（次頁へつづく）



セッションの様子



越村所長の開会挨拶



大類准教授の発表



パネルディスカッション



世界防災フォーラムのブース展示
来場者に対応する吉野賢特任研究員



東北大学減災教育「結」プロジェクト
講演する保田真理プロジェクト講師



防災教育チャレンジプラン実行委員会
セッションで発表する佐藤翔輔准教授



会場となった「エースバック未来中心」
(鳥取県倉吉市)